歴史アラカルト８　　江戸・東京の 400 年

徳川家康による「江戸の街づくり」

現在の東京はどのようにして造られてきたか!!　家康が江戸幕府を開いて発展してきたが、その前はどうであったか、またどのような経過を経て今日の姿になったのか。

秀吉が言ったこの言葉がすべての始まりであった「家康殿、ご貴殿には東の江戸へおもむいてもらいたい」

1590　天正 18 年　家康江戸へ入る

*当時の江戸は葦の茂る湿地帯であり、家を建てるにもことかく有様であった。今の東京駅は前島と呼ばれる所。秀吉は家康を辺鄙な場所に追いやる作戦であった。

***湿地帯に街を築くために家康が行ったことは**

①湿地帯の水を抜くために、堀のように水路を縦横にめぐらす。しかし、人足もいないので家臣たちが作業をした。その努力が実を結びなんとか住む土地を確保した。

②次に家康は辺鄙な土地故、商人を特別待遇で迎えることにした　→　活気ある場所に

③その次に問題だったのは飲み水だった

ある時食べた饅頭がとてもうまかった、うまい饅頭の決めては水だという。そこで、この饅頭はどこで作ったのか聞くと池の水で、そこには井の頭池があった。この池から水道を引き、うまい水が飲めるようにした。

④食料の確保は

街が発展してくると食料の確保をしなくてはならない。幸い利根川の周辺はたくさんの野菜が収穫できた。しかし、舟で運ぶには一度海へ出なくてはならず、荒れる海を経て運ぶのは難しかった。そこで海へ出なくても運べるように運河を造り、利根川から大量に運搬することが可能になった。

⑤野菜だけでなく旨い魚が食べたい

大阪の佃村から 34 人の漁師を江戸に呼んだ。そのため、佃島と呼ばれるようになった。これらの結果、江戸前の食文化が栄えることになった。

1606　慶長 11 年江戸城に天守閣を造る

江戸城は 1457(長禄元年)に太田道灌が築城した。おもしろいことに徳川幕府になってから天守閣が造られたが、三回も天守閣が建て替えられている。

1606 家康が初めて天守閣を造る

1622 元和 8 年二代将軍秀忠は、父家康を越えたい気持から完成して 16 年しか経ていな

い天守閣を壊して新築した。より豪華な装いにした。

1638 寛永 15 年三代将軍家光も 15 年しか経ていない天守閣を壊して、わずか三ヵ月半で造り直した。家光は三ヵ月半の短期間で成し遂げたことを誇示した。この時は前の資材を再利用したという。

しかし、天守閣は 20 年後の大火で焼失しその後再建されることはなかった。が、200 年続いた世の象徴となった。

*京都の鬼門が比叡山であることに倣い、江戸も京都の比叡山に見立て寛永寺を建てた。東の比叡山と言う意味である。

江戸から東京へ

江戸を西洋並みのレンガ造りの街に造り変えたい、と考えた井上馨はドイツからベックマンを招いた。まずはじめに裁判所・司法省・国会からと考えた。

*ベックマンは単純に西洋式を導入しても、日本では地震災害を乗り越えなくてはならず独自の調査を行い、壮大な都市計画を作り上げた。それは、防災を兼ねた広い道路、中心には広場をもつ西洋の街と同じものだった。

*明治 20 年　ベックマンの計画はお金がかかり過ぎると却下され、幻の計画に終わる。

*大正 12 年　関東大震災　→　ベックマンの造った司法省と裁判所は倒壊しなかった。

↓

道路を軸にした都市計画が作られた

昭和 20 年　大空襲

昭和 39 年　東京オリンピック

昭和 50 年　裁判所解体

平成 6 年　　司法省復元

平成 24 年　　東京駅復元